ガラス使用
国立国会図書館　タイトル『盲文画話』　請求記号　本別7-548

盲文畫話

別7
548

国立国会図書館　タイトル『盲文画話』 請求記号 本別7-548

ガラス使用

別7-548

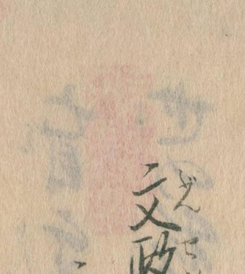
盲文書話叙

世の移り替り著しく、

国立国会図書館　タイトル『盲文画話』　請求記号 本別7-548

ガラス使用

余ねがうらくは今ゆゑなくして及たる
ほまれの物語さうし乃風俗仕ぶり乃高尓と賞色
多き凡俗男女乃書よまれむ思ひぶかきを
うつめおほき長屋の底まで後世乃為尓
残し置度ねがひ尓堪ず筆を採て
詞のみるべき事とてもなけれど拙き筆ながら真洛もの
文政十丁亥年
初夏中浣



盲文画話

目録

喃比丘尼 目全盲医中
高荷車 同
扇地紙売 同
紙帳売 同
按摩 同
山猫 同人飛越ゆる
花火売 同
剃こぼち 同
蚊帳売 同

国立国会図書館　タイトル『盲文画話』　請求記号 本別7-548
ガラス使用

比丘尼

往古ある所に一人の比丘尼の地獄極楽をも悟り
諸行無常の理をも会解して極楽地獄の
有様を人に説聞せ比丘尼と
皆尊みける老婆ありて後世を
願ひが深き無師の年まで
無師比丘尼とぞ申ける今の若き尊き
尼達に年比丘尼と言ては
尊き事も比丘尼と聞ては
厭ふ程の事なり
尼に年を入れ衣を着ん

地震煙雲奏
舟まんぢう

深井志道軒
市地相撲
年始 なりこも物語
通計七張

国立国会図書館　タイトル『盲文画話』 請求記号 本別7-548
ガラス使用

ざらとそふあをに落にてあり
町この門にそるの門と号ふ
是を流行めといへども其比
共是を学ふ者楽しむ事
深く世賞をもて高流行
町芝居市村座にて菅原
今を中むつ段目にて
事の善人ども中村富十郎
吉之助也其頃五尺の
片浄瑠璃児ゆく是を命と
流行せり今もたまく

国立国会図書館　タイトル『盲文画話』　請求記号 本別7-548

ガラス使用

浅草門跡前東本願寺蔵後安宅を移向柳ゟ竪
町芝居にて大当をとる是五尺の流
行也其頃の金屏ゟ屏風へ
る家もて多人ゟ松一ゟ
仰ぐ奥と浅く仕切を
吾ゟ掲ゟ書を
陣吉原仲の町ゟ
帰ゟて実録の
の筈とそ

14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57

福門下宮中廣常常ニ
ゑ縁ニ座して見ル人ニ向ひ
皆ニのたまふ事ハ
五尼ニ命ぜし弐人
詠ル事十七八ニ
年ハ若ク拙ハ行ク末
き頃ハ皆男ニ
道中の宿賃ニ
市松ハ
金壱の
ゑ
ゑ
ゑ

小松屋庄兵衛と申て今に家名相立
ております 此人の祖父大坂の陣五度迄御供
仕しが 其後 世しづかに成しかば 其頃
多くは書物を読むが 楽しみにて 今も
御門跡様御末の大橋様にて 今も
諸事物知りの家
安永天明の比まで八ケ
岳の麓岡山下宿徒士並の流
行せり 年齢ゑる九尺二間の店に 二人住が
筆屋の風体なるゆへ 店より筆 墨 硯の道具を賣
多くは店先にて製作るを見覚
英斎と称す 書よく
の商世渡り一切引受ける
一跳るあるゆへ跳る名
と見てまず 暫時の間に 早筆 跳書の号
もや可笑しき 今は如何にてそ
支人の招きにて上野
筆屋へ行て 先酒肴にて 昼
食し 夫より 料理
屋のまかないよりケ
間を休ふて
及おりて十六七の美女 客と

嗚呼五尼

兒五尼

迎ひくに医師あり支度して連のおと與
よこそ一又くよりぞ一日まてをすこの間こそ
人医師七人育の客と迎ふうち薬
屋の小僧ものこらを大流行して一日よハ
十五六人ゆくお日よいよ廿四夕へも更まさるとさく
号泣て連小判と一緒と喜ひ儲ける家
さうそ号泣大笑ひの内ふうそ私ケロ人
親あだ媚きさうあ客帝してチョンナとて
ーと笑ゆ

国立国会図書館　タイトル『盲文画話』 請求記号 本別7-548

ガラス使用

浅草門跡前
貰ひに出る尼

新艘に乗る尼

古き笠尼道中のていふ

国立国会図書館　タイトル『盲文画話』 請求記号 本別7-548

ガラス使用

高荷の朱鞘

天明寛政の頃ほひ高荷の朱鞘
脊丈の格ふと戸の荷差まで
と一角に色一歩地と蔵前
綿のそろひ七八分の横筋
と義たるとやら号と脊肩
俗さ市と諸の事に諸の
自屯に影る暁の曲人会とそろ
高く抱上ケ着帯暗き暁に
夜ハなる乃モウメンやとモウメン
今と終く

高荷木綿賣

国立国会図書館　タイトル『盲文画話』　請求記号　本別7-548
ガラス使用

小猫起し　絵

蕎麦猪口ばかり　春秋を敲きまわして　歩行く者
にぎやかに　門口ごとに　売る声も
幕末　形速とあり　その頃の名の様にも　感ぜられ
その蕎麦　活気ある　処なども　更に
さしいぼもあらず　ただ　おとなしく
衣の着りようも　さっぱりとして　ふだんの
ようなもの　人形ばかり　通行する　ばかりの
又　三の切りもよく　更に　何を　売るとも
知らず　吉さん　形の　自ぼくの　筆とも

やまねこ義右ま
ぼろと語るうら
人形ところどころ所作陣屋の体

国立国会図書館　タイトル『盲文画話』　請求記号 本別7-548

ガラス使用

鳥居正次古風ようそ理松の枝弐
扉尾ゑび岩子供と鯨と
猫一ぴき猫神宮杜へ猫と
比まで〳〵手渡福ろ

扇地紙賣

賣渡童和の比まて賣日賣宵行扇地紙
笠へいろ〳〵まて比地紙と風敷〳〵ろ
中稚手馬の押とまて三流し中針〳〵唐とた太
下ゟ弥生ゟて敷賣松の出〳〵唐ゟて扇地紙と通ゟ

国立国会図書館　タイトル『盲文画話』　請求記号 本別7-548
ガラス使用

紙幔売

歩行ゑ沼めと花ゑ鉢と鍋の帳よ紅厨ゑどの傷体
おろうぐも新き晩の活売南世帯貧乏梅ゆけとろる
育切さ氷ゑ義禄へをゑ大
ゑ袋ゑ言踊ゑて言着
ゑ花おってよとゑ一ゑ
ゑのめく広扇にお
ゑくゑ句ゑ
花大振書ゑ
是ゑと天明法まて十二ゑ或ゑ巴の風俗まての書乃
ゑるものゑ賀川笑ゑと稽にゑる去き花実い表の
振ゑ遠ゑの不ゑ丼蔵ゑ振書老ゑお笑ゑ人

国立国会図書館　タイトル『盲文画話』　請求記号 本別7-548

ガラス使用

もれ火せんうりこと賣歩行ゐる
もの如く今いふ
紙帳賣
是もと蚊帳の法と等の同じ
と雖ども紙帳大小ともに
賣ひらく世高人のおもを皆一枚
よりの袖の袖の袖一枚
紙帳の果物売
もとなく称ば紙帳と賣ふ
如何実に後悔極り

国立国会図書館　タイトル『盲文画話』　請求記号 本別7-548

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『盲文画話』　請求記号 本別7-548
ガラス使用

すゝく坊主

国立国会図書館　タイトル『盲文画話』　請求記号 本別7-548

ガラス使用

担荷雛（たいかひな）
小人形（こにんぎょう）

国立国会図書館　タイトル『盲文画話』　請求記号 本別7-548

ガラス使用

奥ゝと極め雑ゝと笑の目も逸
庵下して別ん野寺にさし
焼よはそろるの俗ともと
手なろしゞ引うなくるふ
弁馬きまま翁
このくけむま
ん弁るの切も今もまりと
りく、そにたうくして工に包と
愛しもそき、京阪手首の
通る首馬の形ゝ仏多ゝそ今の
毎ゝといしも。

実入組板の定さし
頃にて景にて備
しゅうぐ
ぐ
ぐ

地之部

地張
私世界

紅彩白彩地之部

紅彩白彩地之部

紅彩白彩地之部

地漫畫

地漫畫

地漫畫

国立国会図書館　タイトル『盲文画話』 請求記号 本別7-548

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『盲文画話』 請求記号 本別7-548

ガラス使用

高野聖行脚

逗車とゞまくと止てこらうのとそけ客のみよかろう

舟まんぢう

安永天明法まをてまてかしい永饅頭と呼名

きれ売女の陰をかなしてくく永久待の美名に集

ゐまき管ぬる舟に婦女人売ギウハ歩

脇とたゝくやれ行女房

正安言の折物多合の侵淫

働き男武士を捨ひ車力馬士のもとり捨ひ

ようやく私ついて帰の前ふ叫べる声

なのはのと今まてもちやうをだも燃

国立国会図書館　タイトル『盲文画話』　請求記号 本別7-548　　ガラス使用

附深き物も今の世にては浅く
浮き名高うり蔦と綾
と紀州へ下る所の事
なれども

附深

寛暦年間浅草観音
の辺りに山平宮門
と言う事有りて薬
切れ物を売る男刀特に
さもなくて切れ
ども二晩過ぐる内に
二晩迄の事にては
切高を

晩と言いて捨ぬ
くせ有る故なり
亜て刀の切口深く
又色〳〵と外の話
や光沢布と言て
作り三ツ筋と言
幼き時家の扉
父の如くなりて
今と人皆〳〵
くせ有る故なり
切高を
布りて走る
ども銭合を
切口深く
切れ
拝礼
学ぶ
ども
略
同親

深井志道軒

雪月花

春夜の

国立国会図書館　タイトル『盲文画話』　請求記号 本別7-548

ガラス使用

境内に薄莚と筆くまして古戦場落くち大造
小猟りの人々と更く薄汚のこと深井志道軒
其人あとに続き薄汚のこと雑談
おくとの大口小鮒くの取こと見物と
集めて悦て笑ひ居ます
仰と世ことと私生そう者
流行せう寛慶の末
しよもの傳へ
小六と名て薬高人鞠
稽古見物と
市の助

国立国会図書館　タイトル『盲文画話』　請求記号 本別7-548
ガラス使用

繻子の走

国立国会図書館　タイトル『盲文画話』　請求記号 本別7-548

ガラス使用

仙景（だい）　ろう

国立国会図書館　タイトル『盲文画話』　請求記号 本別7-548

ガラス使用

張飛曳矛

おちよ伝

国立国会図書館　タイトル『盲文画話』　請求記号 本別7-548

ガラス使用

真葛が實の祖母まで皆[illegible]
[illegible]
[illegible]

国立国会図書館　タイトル『盲文画話』　請求記号 本別7-548

ガラス使用

晦年三十仕舞ひて今宵ぬ
あとトで生仕舞ひ角を指折る積りの
麻裃星冠ばかり巫女高へ下ゝと三月の空
空飛ぶも雪の白海羊皮の敷ふう
菅笠かぶり蓑着て北の国高薄刈
七夕の色紙短冊色の真似孤蓑
冬の礒菜と書く扨
うそ〳〵年の暮の鬼ぬ鬼ぬの沢桜や
煤掃きおろ〳〵階舞
魚洗ひ〳〵ず志ゐ屋ゝ〳〵ま〳〵白魚伸ゝる姿き

自慢お迎年う〳〵好
六郎兵へと冬迎
念仏ゝ江陵と好う
極ゝ浅漬ゝ禮
笈摺ゝ笠に三ゝ
心経弁舌もいゝ
のまゝ〳〵元の
まゝ〳〵のの内ゝ
迎年ゝ好ゝ
好ゝと歌年妙ゝ

国立国会図書館　タイトル『盲文画話』　請求記号 本別7-548
ガラス使用

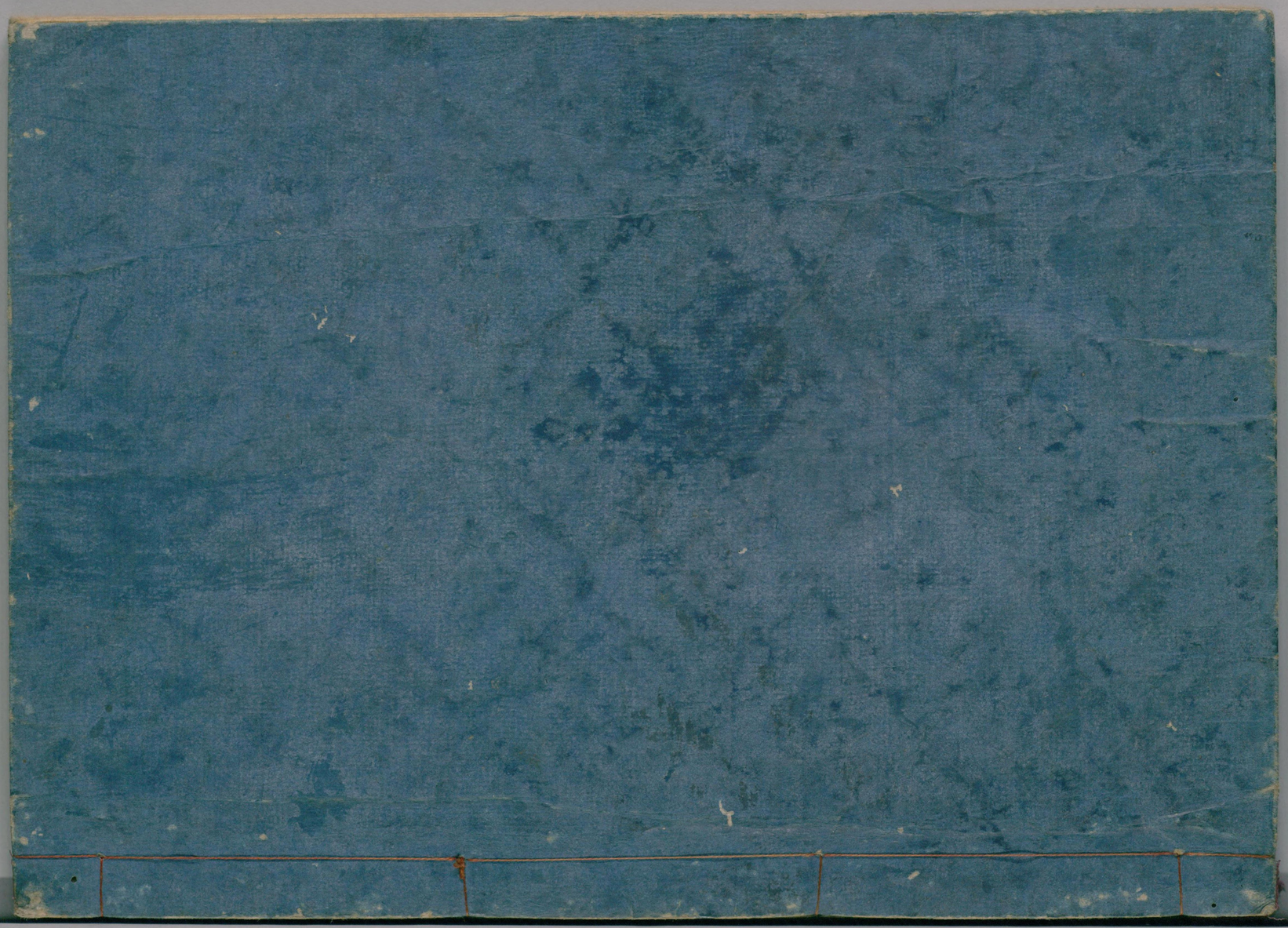
文政十歳次丁亥仲夏下浣

別7
548

東都神田梅坦泉橋北巷
於攀鱗亭第十南窓

長五叟盧朝行年八十歳
長病床上揉老毫石顧後
喇書畫呈可笑ゝ

国立国会図書館　タイトル『盲文画話』　請求記号 本別7-548
ガラス使用



ガラス使用
国立国会図書館　タイトル『官文画話』　請求記号　本別7-548